

那須塩原市
『地域福祉に関する市民意識調査』
結果報告書(案)

平成18年11月

那須塩原市 市民福祉部

社会福祉課

目 次

〈調査概要〉	2
1. 基本項目（問1～問10）	3～
2. 日常的な生活・地域での活動について（問11～問16）	9～
3. 地域福祉活動について（問17～問21）	15～
4. 地域における福祉のあり方について（問22～問27）	20～

〈調査概要〉

1. 調査の目的

那須塩原市地域福祉計画策定に関し市民の地域活動への参加状況や実態把握を目的として実施した。

2. 調査名 地域福祉に関する市民意識調査

2. 調査項目

- (1) 基本項目（問1～問10）
- (2) 日常的な生活・地域での活動について（問11～問16）
- (3) 地域福祉活動について（問17～問21）
- (4) 地域における福祉のあり方について（問22～問27）
- (5) 自由な意見について（問28）

3. 調査設計

- (1) 調査地域：那須塩原市全域
- (2) 調査対象者：市内在住の満18歳以上の男女
- (3) 標本総数：2,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳(平成18年10月1日現在)からの無作為抽出
- (5) 調査期間：平成18年10月13日(金)から平成18年10月24日(火)まで
- (6) 調査方法：返信用封筒を同封した郵送配布、郵送回収
調査票による本人記入方式
設問数28問。うち自由記述回答1問にて実施

4. 回収結果

- | | |
|----------------|--------|
| ①有効（送達）標本数 | 1,996通 |
| ②無効（未送達、返送）標本数 | 4通 |
| ③回収標本数 | 788通 |
| ④回収率 | 39.5% |

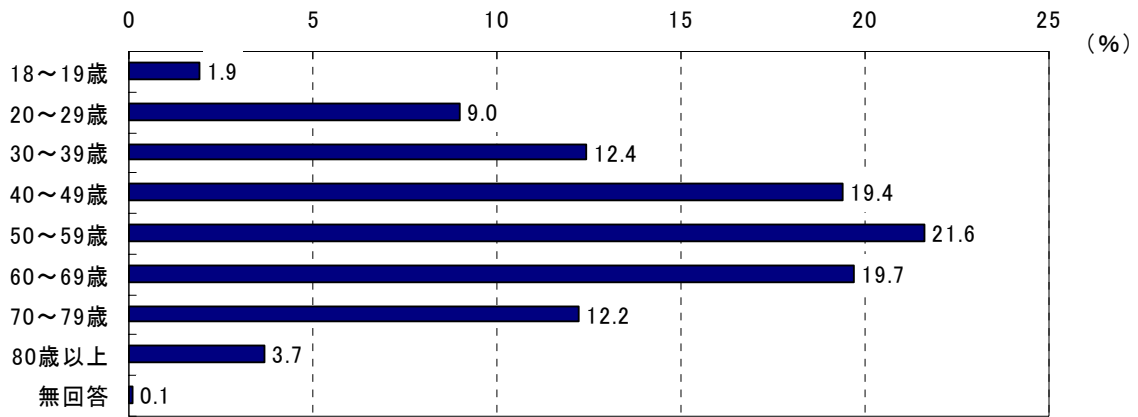
5. 集計方法

電子計算機による集計（委託）

1. あなた自身について(基本項目)

問1 あなたの年齢(平成18年10月1日現在)は何歳ですか。あてはまるものに○をつけてください。

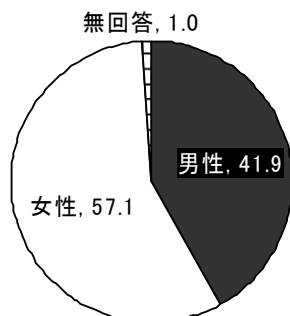
問1 年齢 (単数回答) n=788



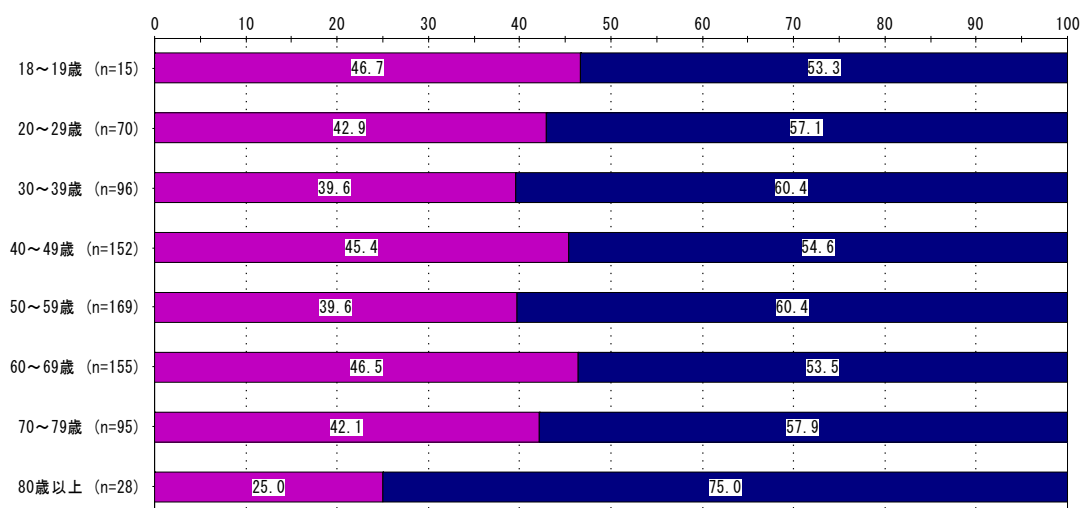
若年者の回答が若干少ないものの、30～69歳の層が安定して回答しています。30～69歳の層が、この問題に強い関心を寄せていることの現れであるといえます。

問2 あなたの性別はどちらですか。あてはまるものに○をつけてください。

問2 性別（単数回答） n=788



男性よりも、女性の回答が約15%高くなっています。



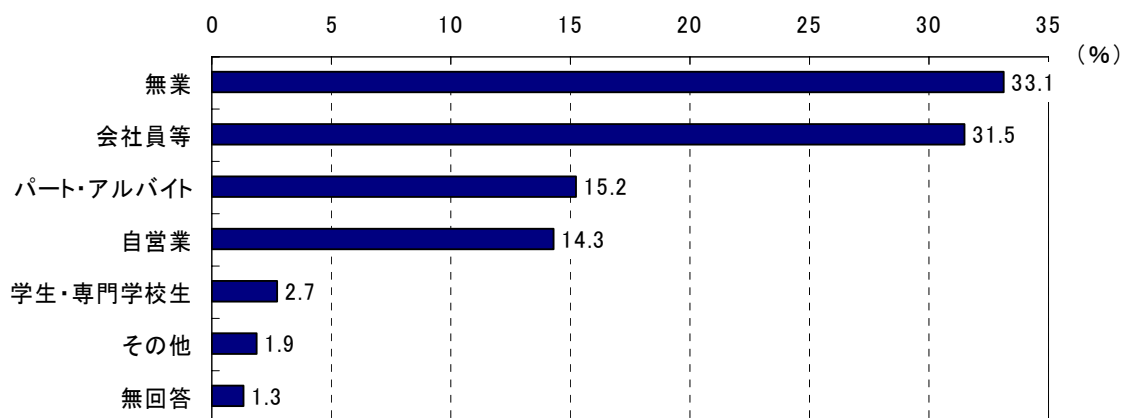
問2 性別 × 問1 年齢



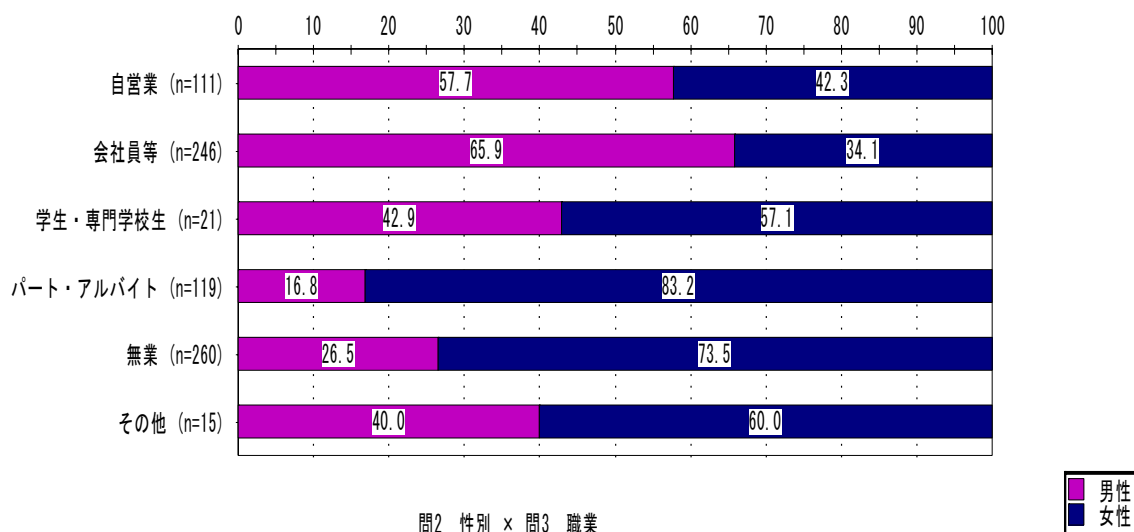
その原因は、性別と年齢別をクロスさせると明らかとなります。どの年齢層でも女性が5割以上、最も多い層で4分の3が女性の回答で占めていることが分かります。

問3 あなたの就業・就学の状況は次のどれですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問3 職業（単数回答） n=788



会社員と無業がともに約30%、次いで、自営業とパート・アルバイトが約15%となっています。無業には年金生活者も含まれますので、最も高い割合になっているものと思われます。

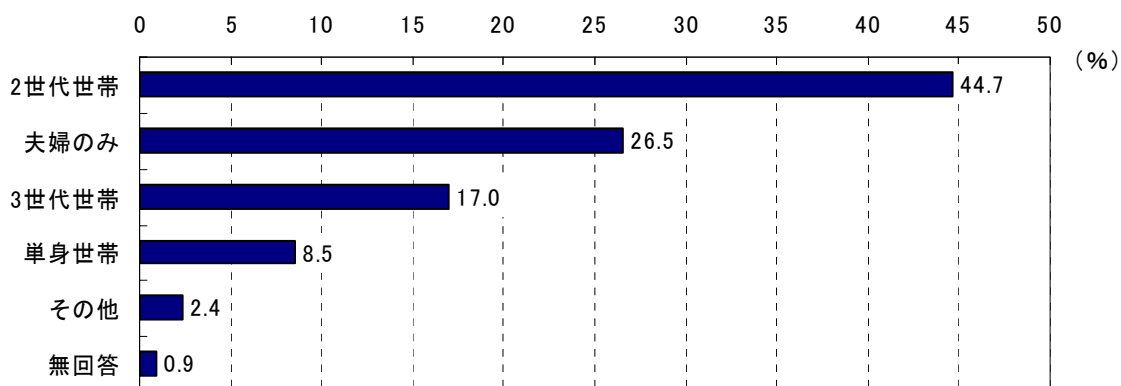


問2 性別 × 問3 職業

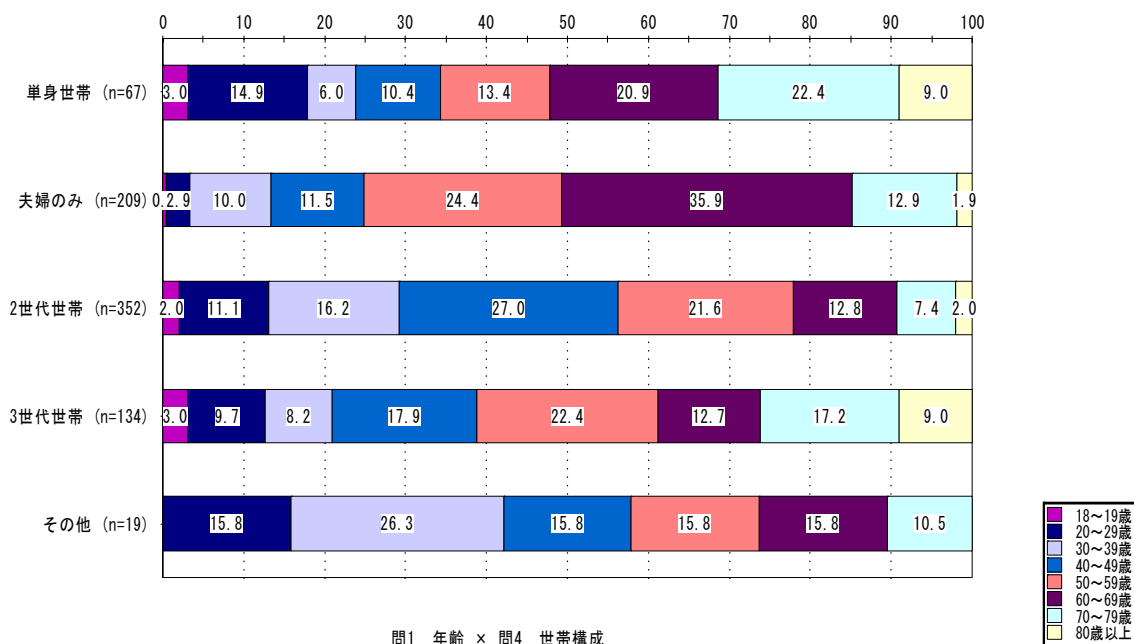
性別とのクロス集計で見ると、パート・アルバイトや、無業の割合が、女性では7割を越えていることから、那須塩原市における地域福祉は、女性に対する施策について充実させる必要があることが明らかとなっています。

問4 あなたが現在同居している家族の構成は次のどれですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問4 世帯構成（単数回答） n=788



2世代世帯の割合が半数近くにまで達しています。単身・夫婦のみの世帯と合わせると、8割を超えており、大多数が2世代以下の生活を営んでいることが分かります。その他の2.4%のうち、半数は4世代家族であるとの回答です。

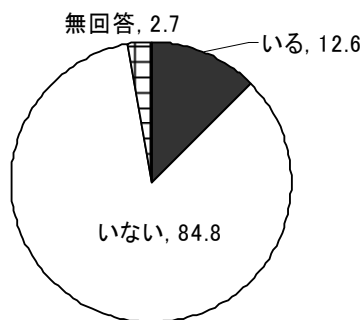


問1 年齢 × 問4 世帯構成

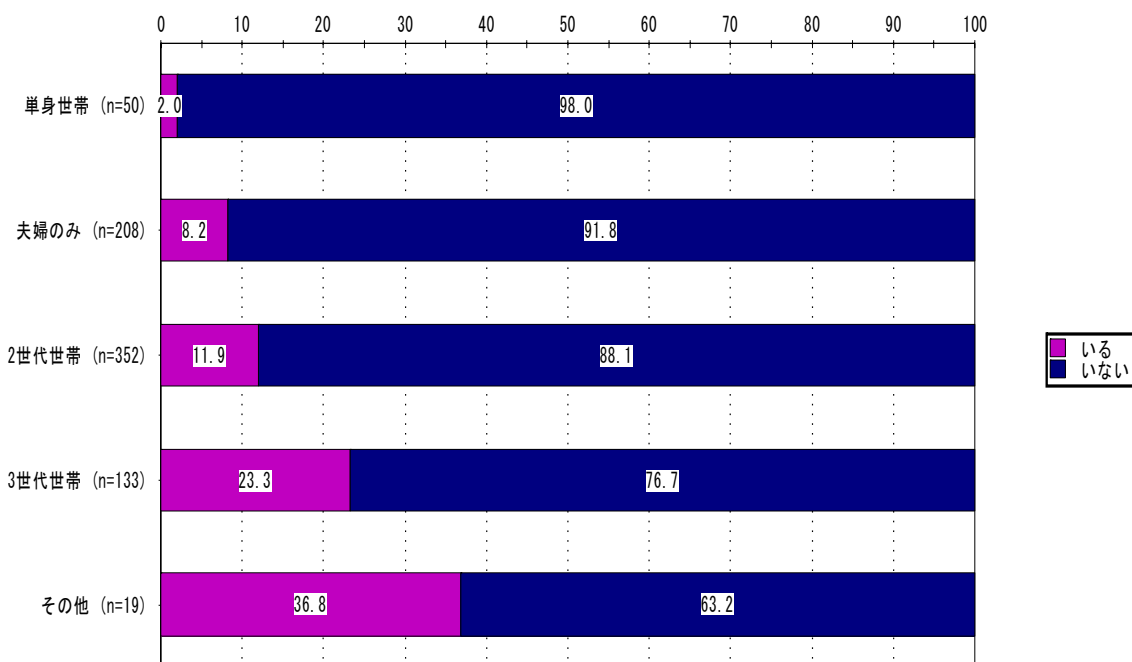
年齢別でのクロス集計を見ると、夫婦のみ、または単身世帯の家族は60代・70代と、比較的年齢が高い層に集中していることが分かります。一方で、世帯数が多くなると50代以下の層に回答がシフトしていく様子も明らかとなりました。

問5 あなたが現在同居している家族の中に、障がいのある方、介護保険のサービスを受けている方などはいますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問5 障がい者・介護保険の有無（単数回答） n=788



8割以上の家庭が「いない」と回答しています。しかし、いると答えた方も1割を超えている状況ですので、回答者の年齢構成から考えても無視できない数であるといえると思われます。各項目でクロス集計をしてみると、男女間ではほぼ差はありません。年齢層でも、職業別でも、際だった特徴が現れません。

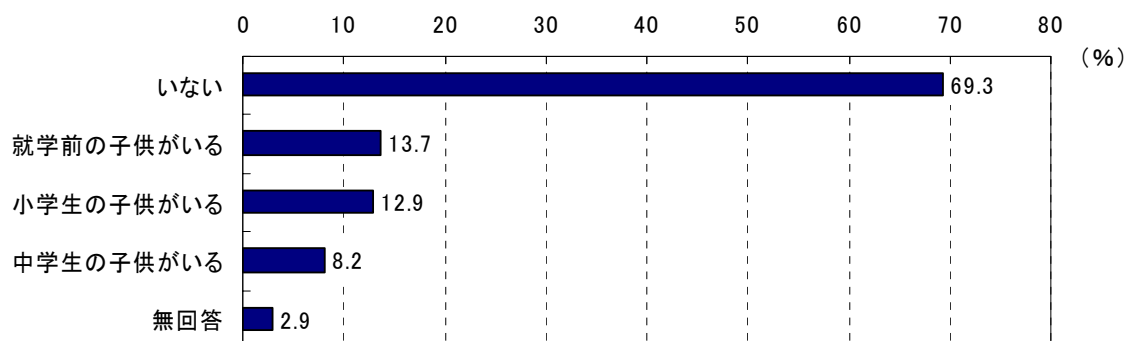


問5 障がい者・介護保険の有無 × 問4 世帯構成

しかし、世帯数別でのクロス集計を行うと、世帯数が多くなればなるほど、障がい、介護保険サービス利用者が増えていることが分かります。このことから、那須塩原市は、障がい者、介護保険サービスの利用者が家族によって支えられている実態が浮き彫りとなりました。

問6 あなたが現在同居している家族の中に、中学生以下のお子さんはいませんか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

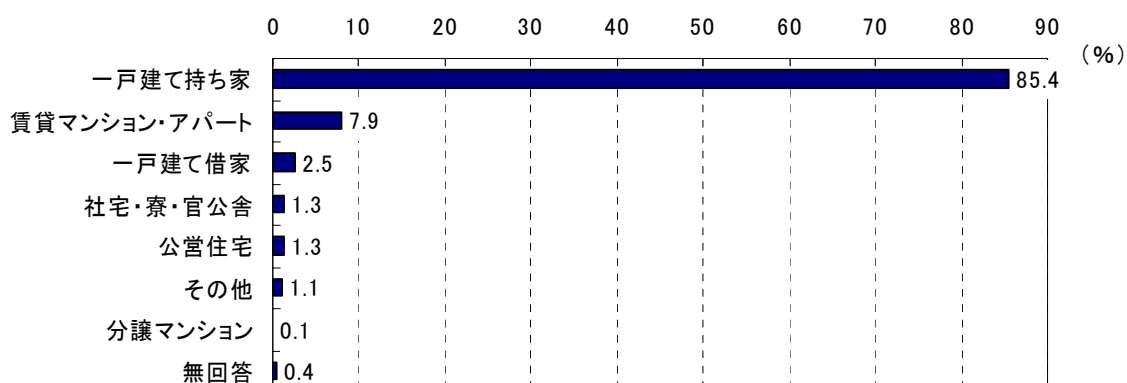
問6 中学生以下のお子さんの有無（複数回答） n=788



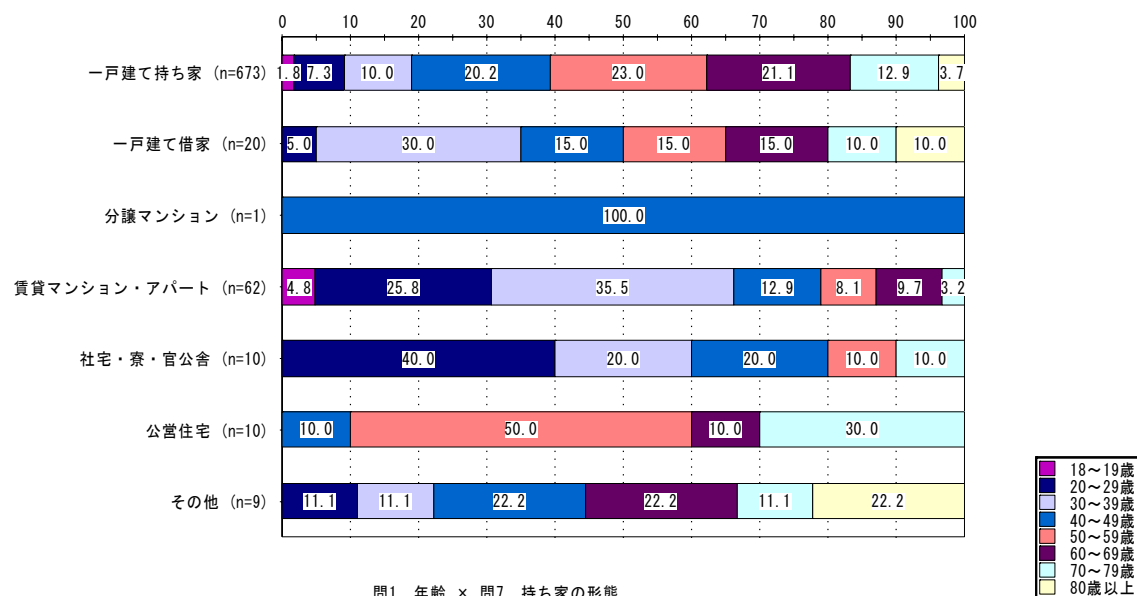
「いない」との回答が約7割を示しました。残り約3割は、未就学児、小学生、中学生とも、ほぼ均等に分布していることが分かります。なお、男女間、年齢間での特徴は特に現れません。

問7 あなたのお住まいは次のどれですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問7 持ち家の形態（単数回答） n=788



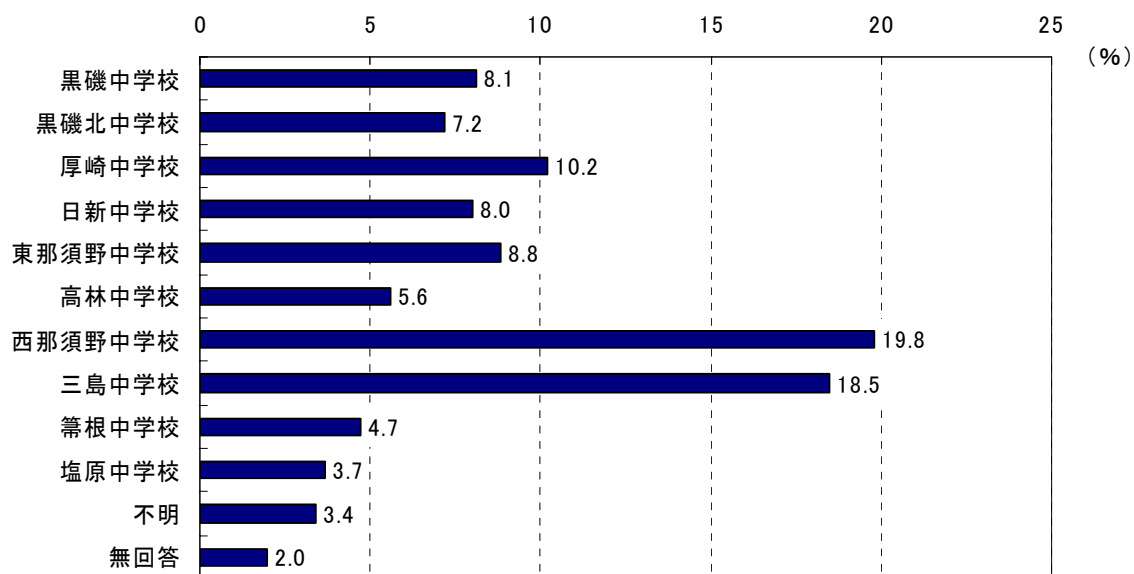
地域特性としてはっきりと現れているのは、「一戸建て持ち家」の比率が5分の4を超えている点です。ほとんどの家庭では、一戸建てに住居を構えて生活していることが分かります。「その他」の回答としては、特別養護老人ホームや施設、宗教団体所有の住宅に居住しているとの回答がありました。



年齢別クロス集計を行うと、一戸建ての分布は各年齢層でバランスよく分散されています。一方、賃貸マンションやアパートなど、いわゆる「賃貸」での住居を構えている層は、50代以下の層に集中していることがわかります。

問8 あなたの居住地(中学校区別)はどこですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

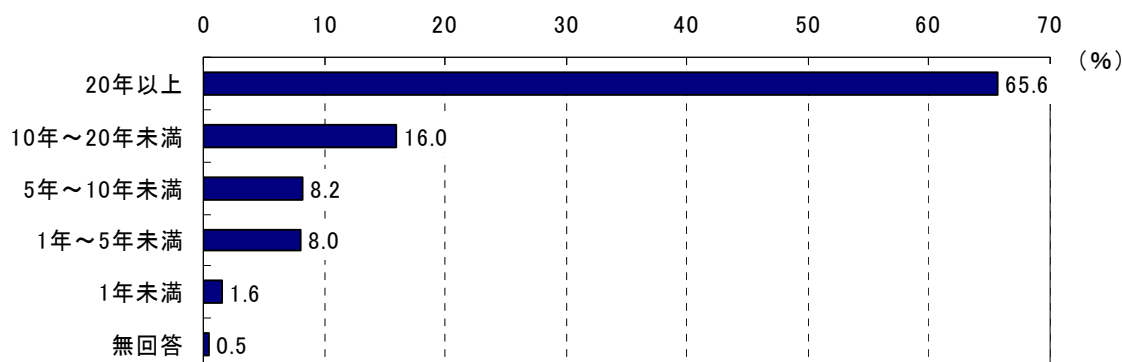
問8 居住区(中学校区別)(単数回答) n=788



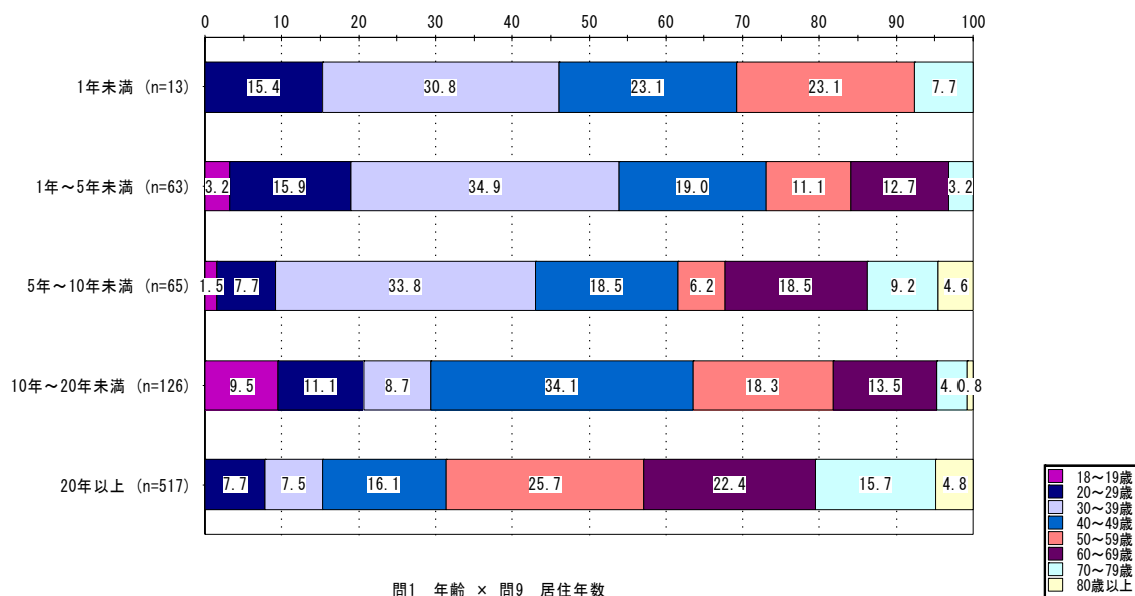
西那須野中学校、三島中学校に居住されている方が全体の2割近くを占めています。一方、箒根中学校、塩原中学校に居住されている方が、全体的に少ないことが分かります。

問9 あなたは那須塩原市(旧黒磯市、旧西那須野町、旧塩原町を含めて)に住んで(通算して)何年になりますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問9 居住年数 (単数回答) n=788



全体の3分の2の方が、20年以上居住されていると回答しました。5年未満の居住者は全体で2割を割り込んでおり、この地域での居住者は、居住してから相当程度の年数が経過している住民の皆さんが多いことが分かります。

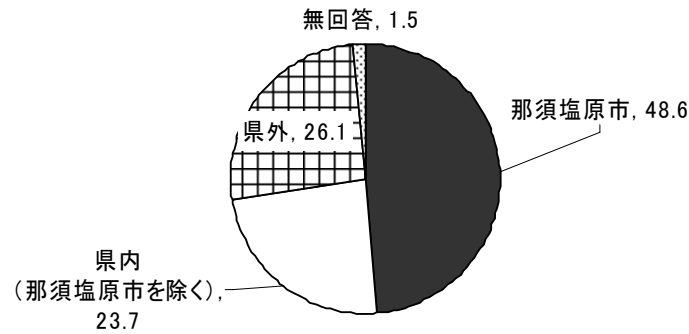


問1 年齢 × 問9 居住年数

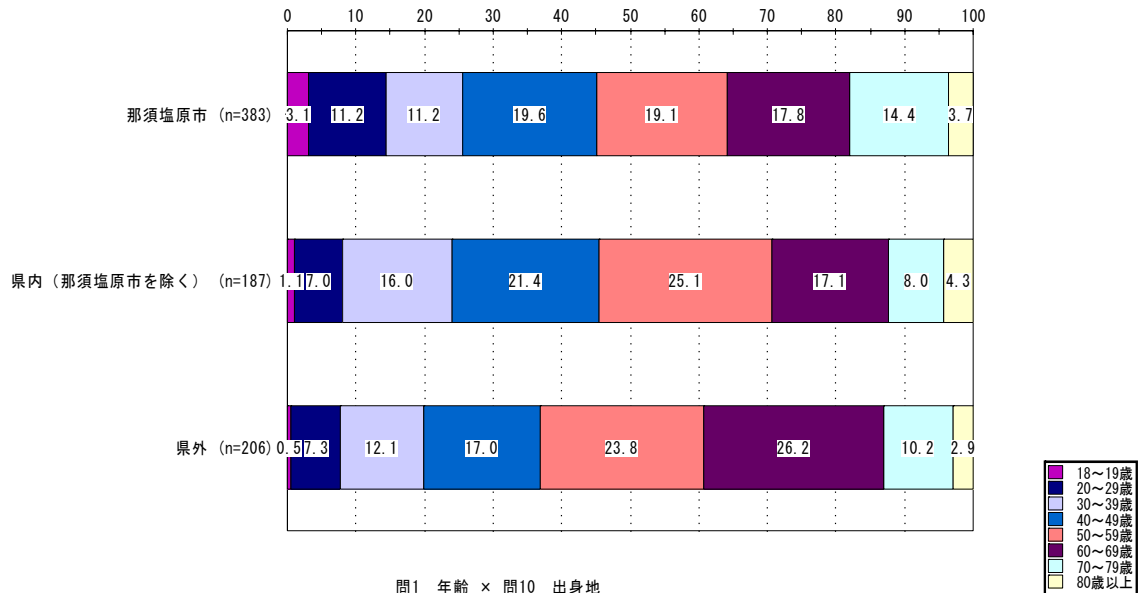
年齢別でのクロス集計を見ると、30代以下の住民はおおむね10年未満、40代以上になると、おおむね10年以上那須塩原市に居住している傾向がうかがえます。

問10 あなたの出身地はどこですか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問10 出身地（単数回答） n=788



那須塩原市出身と回答した方が全体の約半数、栃木県内を含めると4分の3ほどになります。一方、出身地が他県である方も4分の1を超えています。



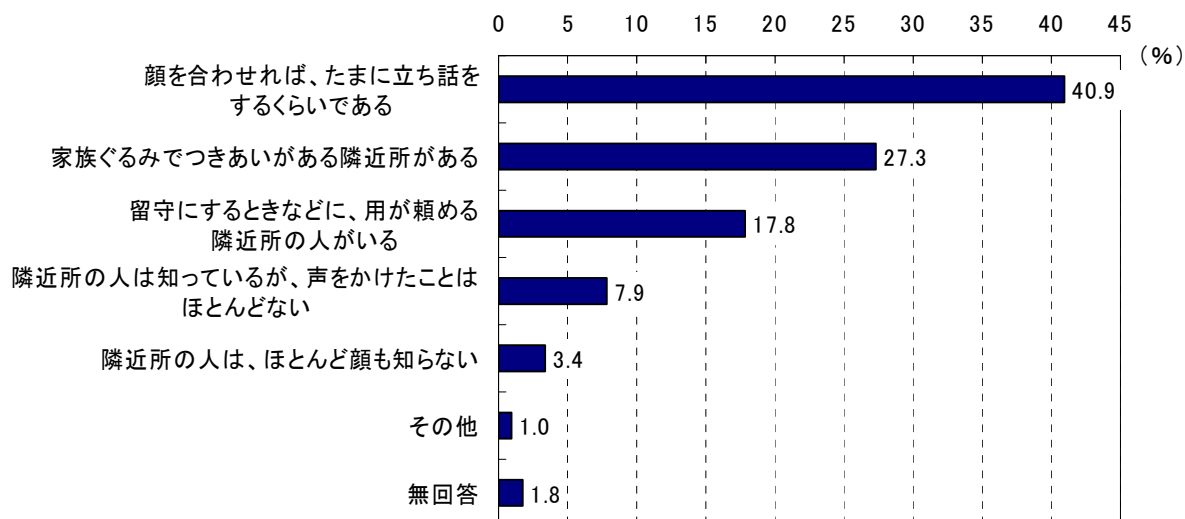
問1 年齢 × 問10 出身地

年齢別のクロス集計を見ると、那須塩原市、栃木県内、県外の割合が、各年齢層で同じような傾向を示していることがわかります。世代間で見れば、那須塩原市、栃木県内、県外の出身地の割合がそれぞれ2 : 1 : 1程度になるようです。

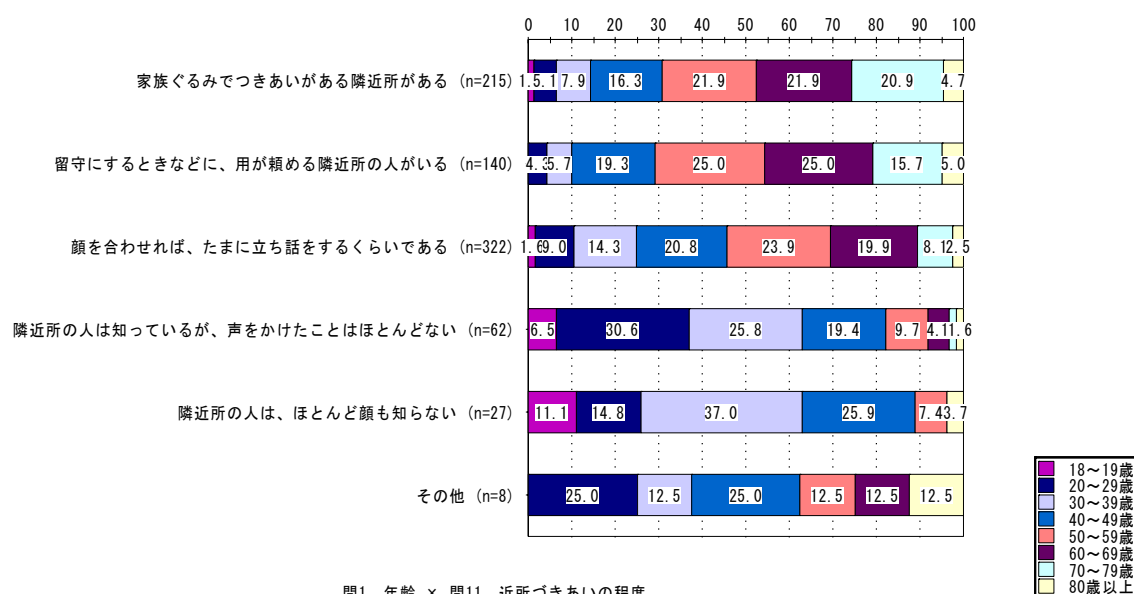
2. 日常的な生活・地域での活動について

問11 あなたは近所の人とはどの程度のお付き合いをしていますか。あてはまるものに1つ〇をつけてください。

問11 近所づきあいの程度（単数回答） n=788



「家族ぐるみでつきあいがある」という積極的な近所づきあいから、「顔を合わせれば立ち話する」程度の消極的な近所づきあいまで含めると、近所づきあいが「ある」と答えた方は全体の8割を超えます。そのうち、積極的な近所づきあいができる方が全体の4割をしめており、近所づきあいはおおむね良好であると考えられます。



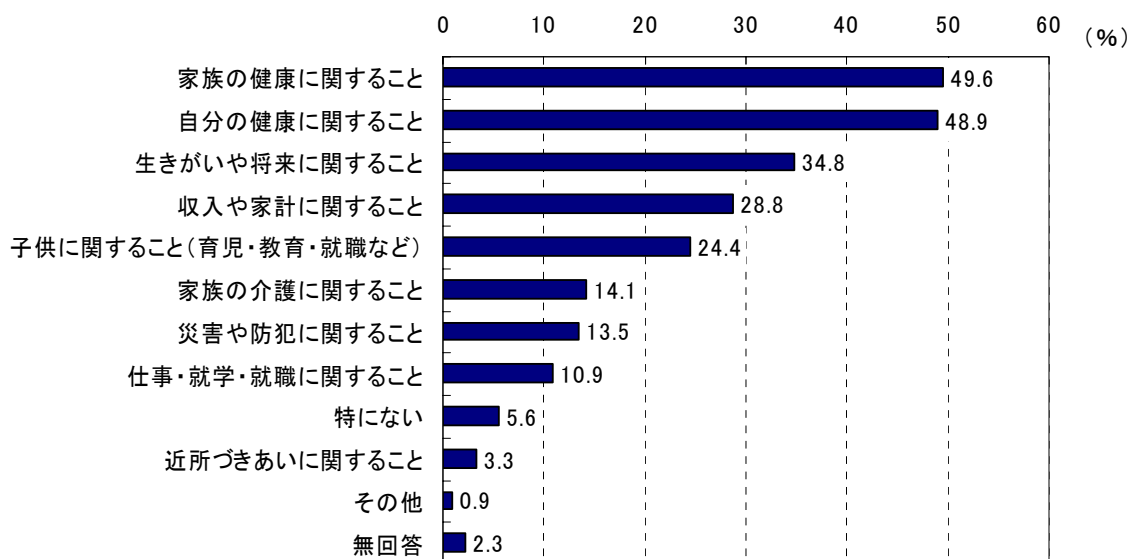
問1 年齢 × 問11 近所づきあいの程度

年齢別データとクロスさせてみると、40代以降の層は隣近所と何らかのつきあいがあると思われませんが、一方、30代以下では隣近所との関係が薄いのではないかと考えられます。

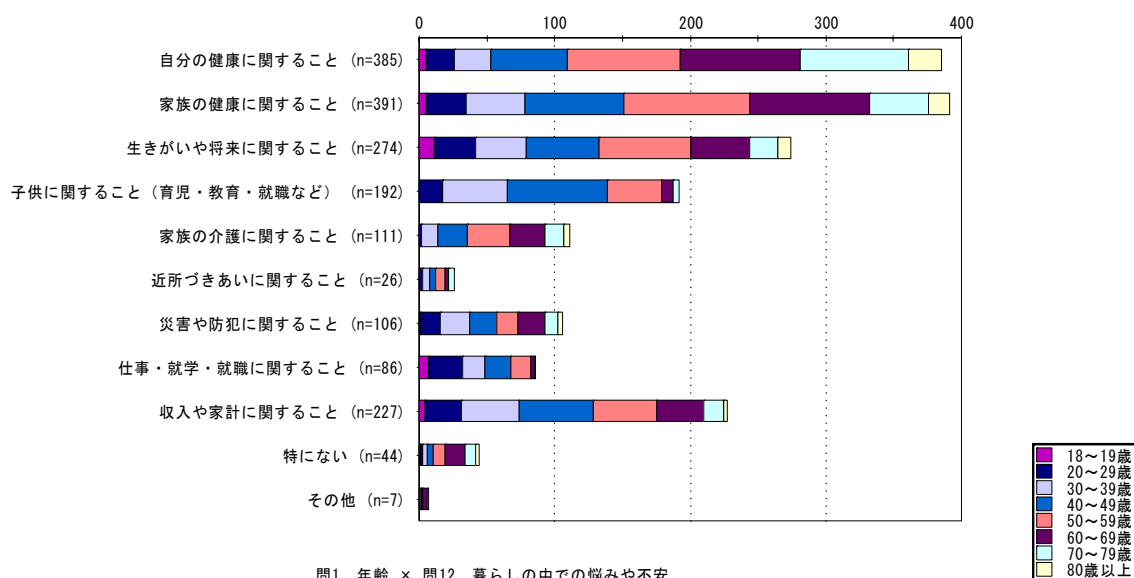
これらのことをふまえて考えると、40代以降の層は、おおむね近所づきあいが良好であるが、30代以下の層は、近所づきあいに関する関係性をもう一度見つめ直す必要がある、と言えるのではないのでしょうか。

問12 あなたは普段の暮らしの中でどのような悩みや、不安を感じていますか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

問12 暮らしの中での悩みや不安（複数回答） n=788



自分や家族の健康に関することへの回答が全体の約半数の回答がありました。この設問では、健康に関する関心が非常に高いことが分かります。次いで関心が高かったのは、収入・家計に関すること、子供に関することが高い関心であることが分かります。全体として、健康、収入、子供に関することに、多くの関心を寄せていることが分かりました。

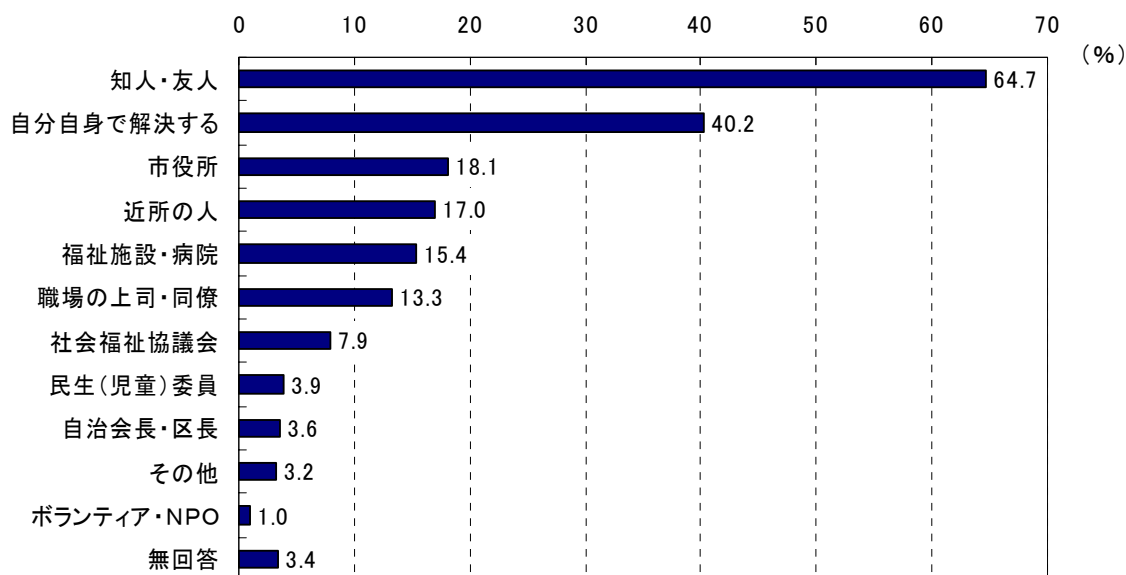


問1 年齢 × 問12 暮らしの中での悩みや不安

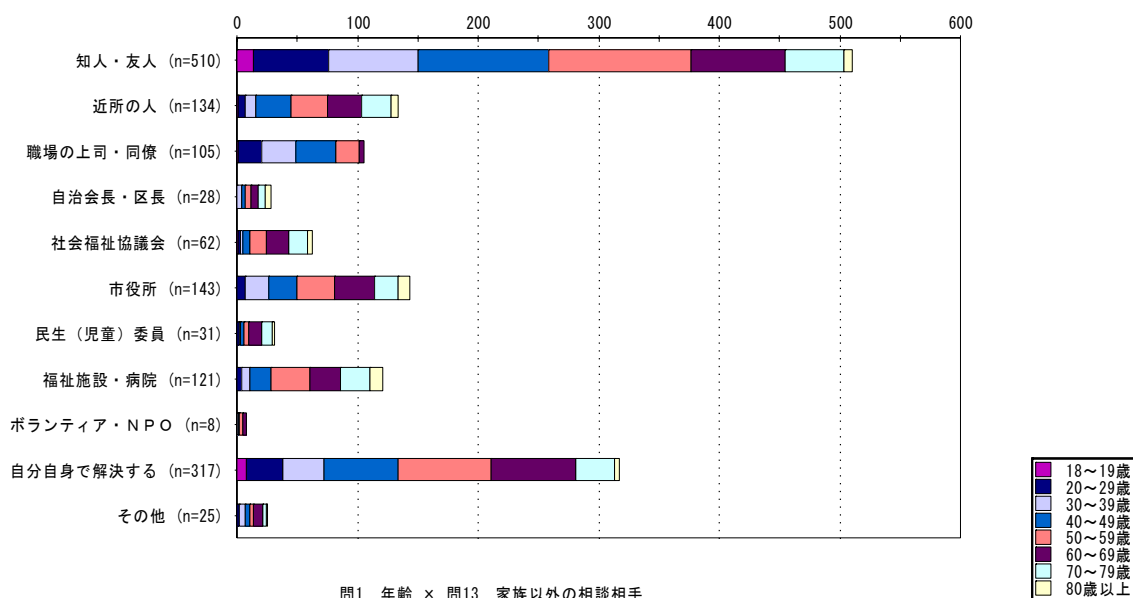
これを年齢層別でクロス集計してみると、「自分」の健康に関しては50代以降の層が、「家族」の健康に関しては40代以降の層が強い関心を示していることが分かります。一方、子供に関することは30代以下の層で強い関心があるようです。収入や家計に関することは、50代以下の層が強い関心を示しているようです。

問13 あなたが日常の生活で困った場合に、家族・親族以外では、まずどこに(どなた)に相談したいですか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

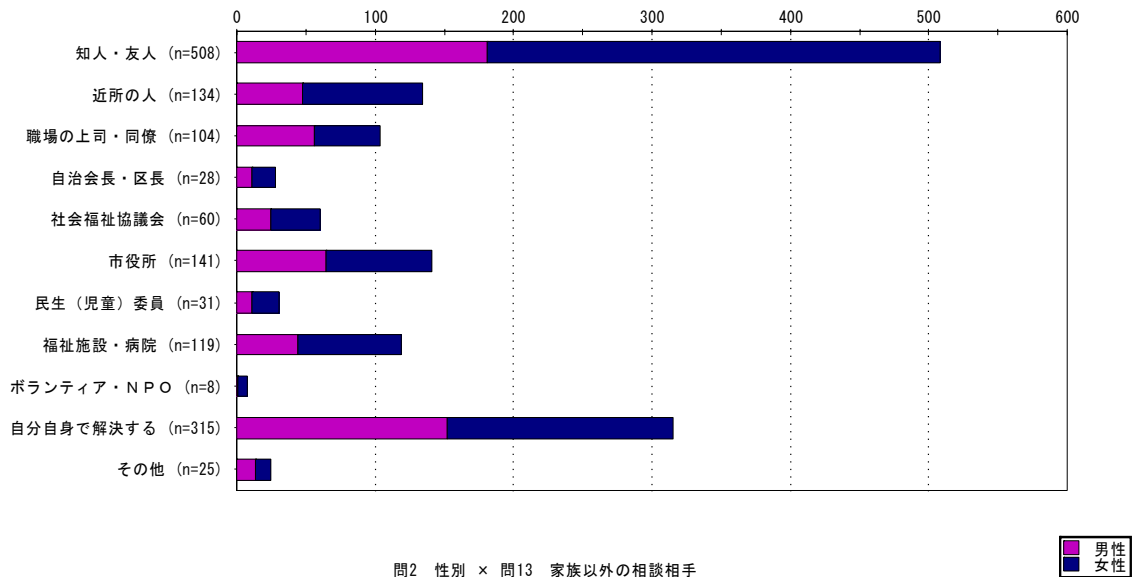
問13 家族以外の相談相手 (複数回答) n=788



最も多くの回答があったのが、「友人・知人」という回答でした。次いで「自分自身で解決する」という答えが4割近くの方が回答しています。前問、「近所づきあいの程度」の回答の割には、「近所の人」へ相談する割合がそれほど多くないことが特徴的です。近所の人と同程度の割合として、職場の上司や同僚、市役所、福祉施設・病院に回答が集中しています。



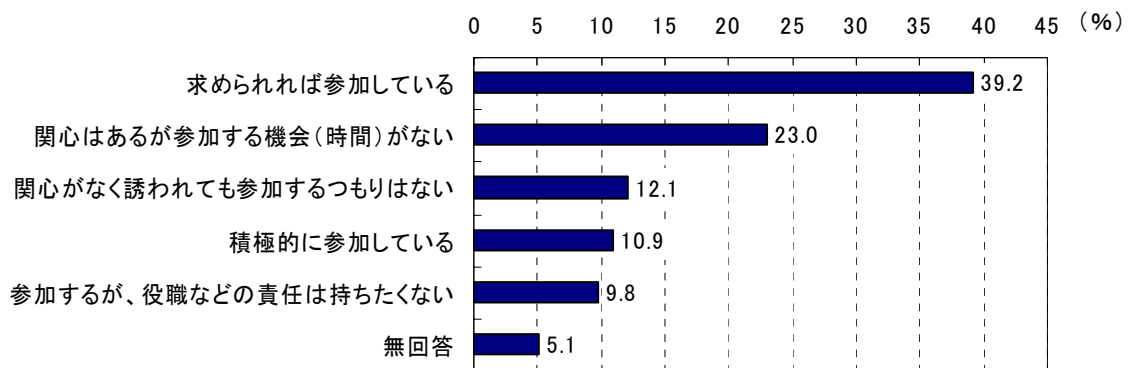
年齢別でのクロス集計を見ると、「友人・知人」では各層ともバランスが均衡しています。一方で、「近所の人」に相談する層は、40代の層から割合が多くなっています。対して、20代～30代の層は、「職場の上司や同僚」や「市役所」に頼っていることがうかがえます。問11の設問とあわせて考えると、近所づきあいの程度がこの年齢層分布からもある程度推測できると思われます。



さらに、性別でクロス集計を行うと、「近所の人」に相談しているのが、実は女性であるのが多いことが分かります。男性は、職場の上司・同僚に相談している傾向が強いです。

問14 あなたは地域の行事や活動にどのように参加していますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

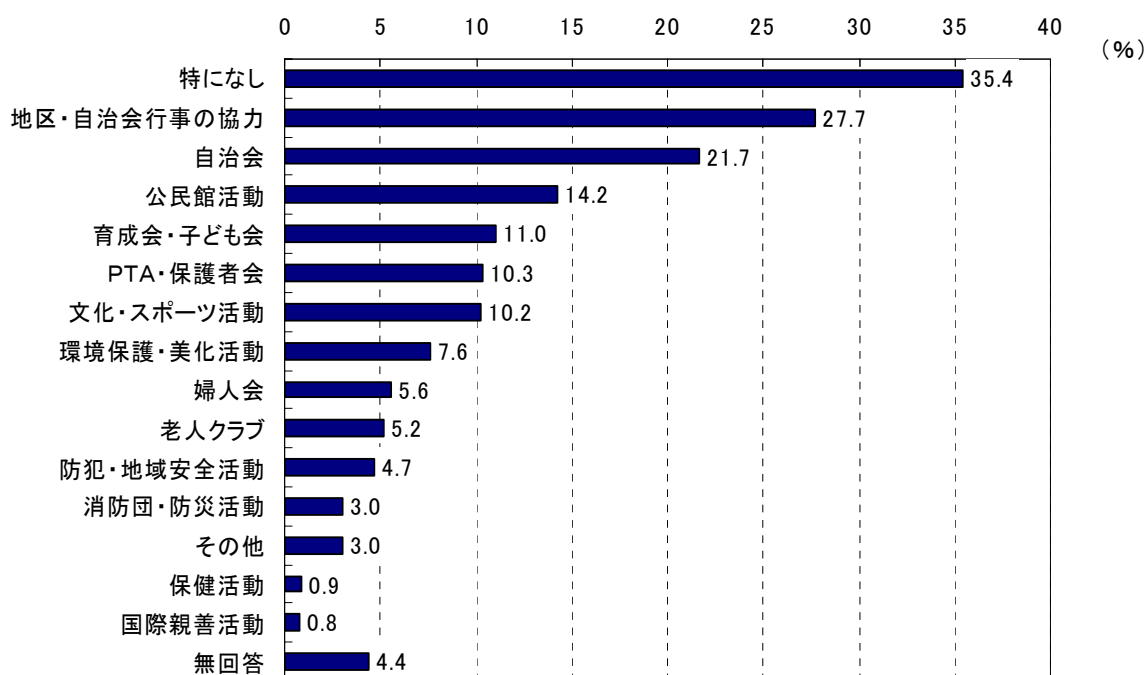
問14 地域の活動への参加（単数回答） n=788



「求められれば」という消極的な参加姿勢も含め、「参加している」と回答した方は半数を超えました。一方、「参加したいが時間・機会がない」と答えた方は全体の4分の1になります。時間のない方や機会がない方など、地域活動に関する取り組みが今後必要になるのではないかと思います。

問15 あなたが現在参加している地域活動にはどのようなものがありますか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

問15 参加している地域活動（複数回答） n=788

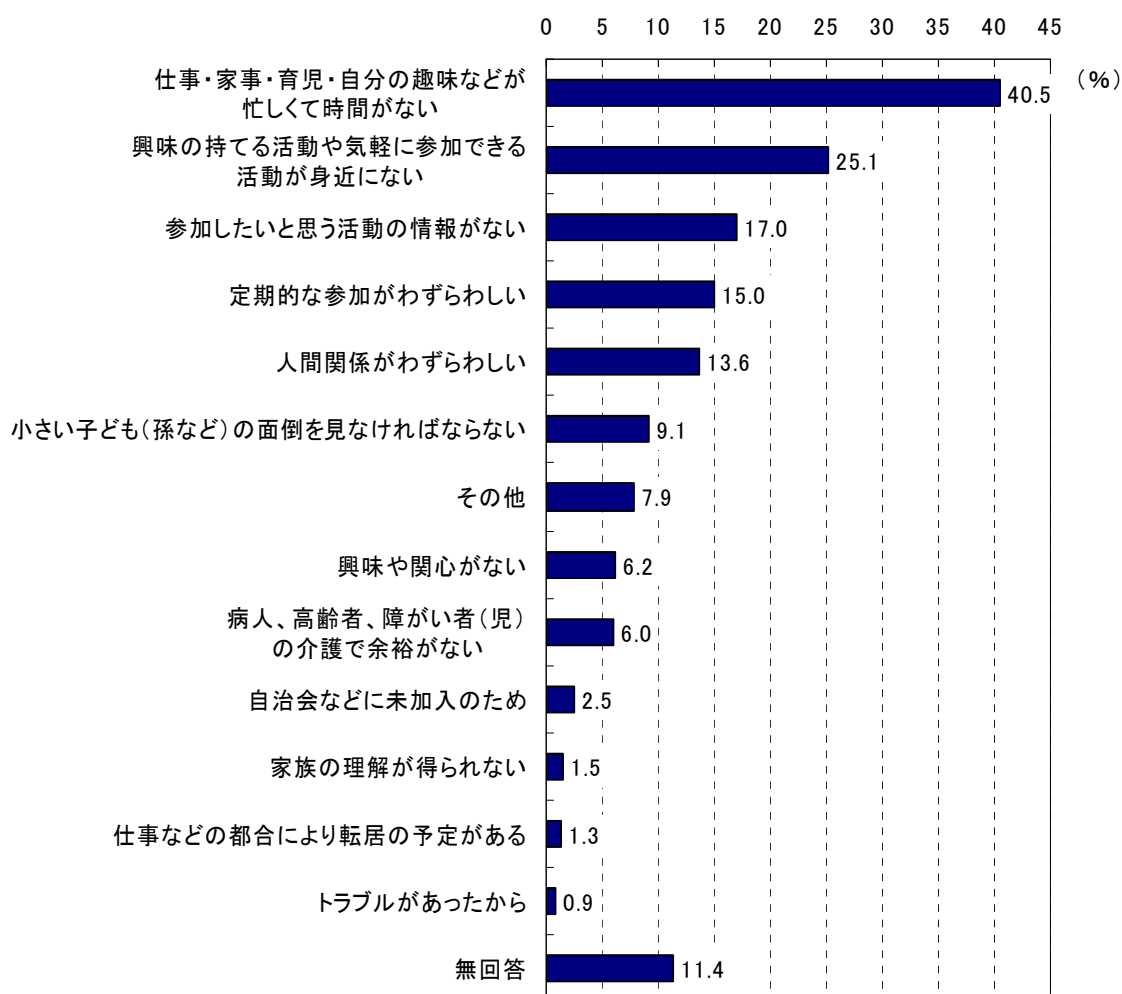


最も多くの回答だったのが「特になし」で、全体の35%をしめています。前問で「参加している」と回答した方が半数以上でしたが、この数字は何を示しているのか検討する必要があります。

参加している活動の中では、地区・自治会行事への協力が27.7%と最も高く、次いで自治会、公民館活動、PTA・保護者会、文化・スポーツ活動と続いています。

問16 あなたが地域での活動に参加しようとした場合に、支障となることがありますか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

問16 地域での活動への支障（複数回答） n=788



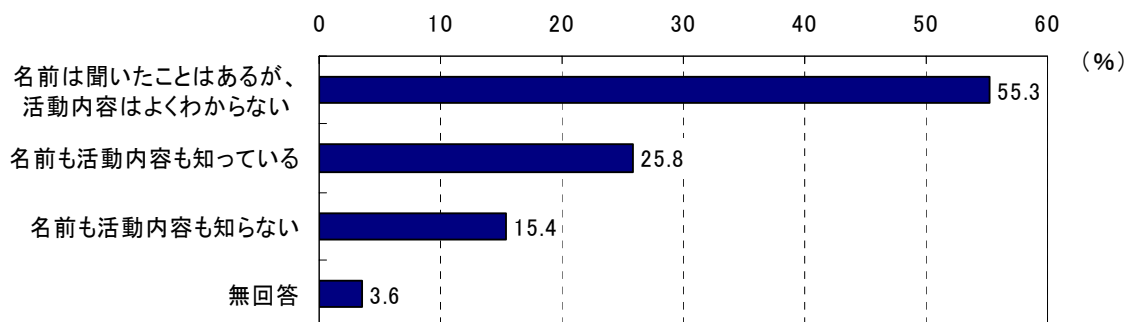
活動に関して支障となる点についてお聞きした設問です。「仕事・家事・育児・自分の趣味などが忙しくて時間がない」との回答が全体の4割を越え最も多く、「興味の持てる活動や気軽に参加できる活動が身近にない」、「定期的な参加がわずらわしい」、「人間関係がわずらわしい」といった回答が続いています。

前問で、地域活動に参加はしているが、参加している活動が「特にない」との回答に集中したことは、「時間がなく」、「興味もてる活動が身近になく」、「定期的参加や人間関係がわずらわしい」との要素があるからではないか、との推測が導き出されるように思われます。

3. 地域福祉活動について

問17 あなたは社会福祉協議会を知っていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

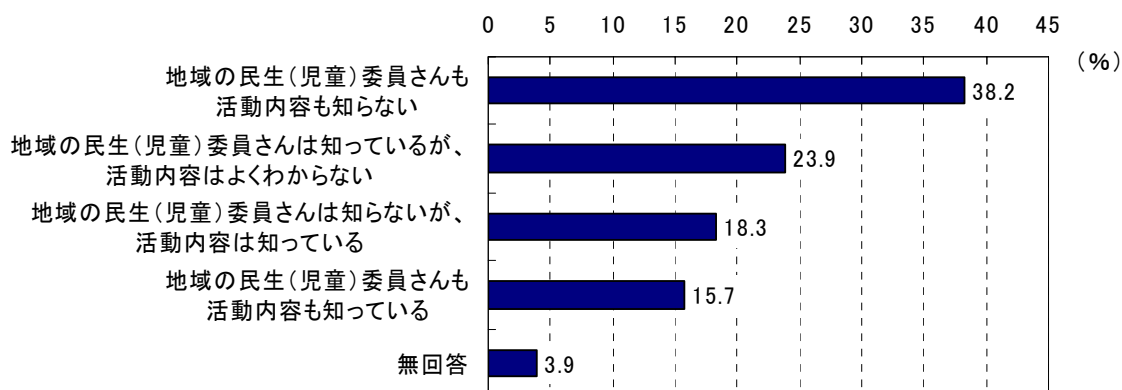
問17 社会福祉協議会の認知度（単数回答） n=788



この設問では、地域福祉に関する「社会福祉協議会」についての認知度をお聞きしました。全体の半数以上は、「名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく分からない」といった回答でした。「名前と活動内容が一致」している方が全体の4分の1、「名前も活動内容も知らない」との回答は約15%でした。総じて、社会福祉協議会の活動内容についてあまり知られていないことが分かりました。

問18 あなたはあなたの地域の民生(児童)委員さんを知っていますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

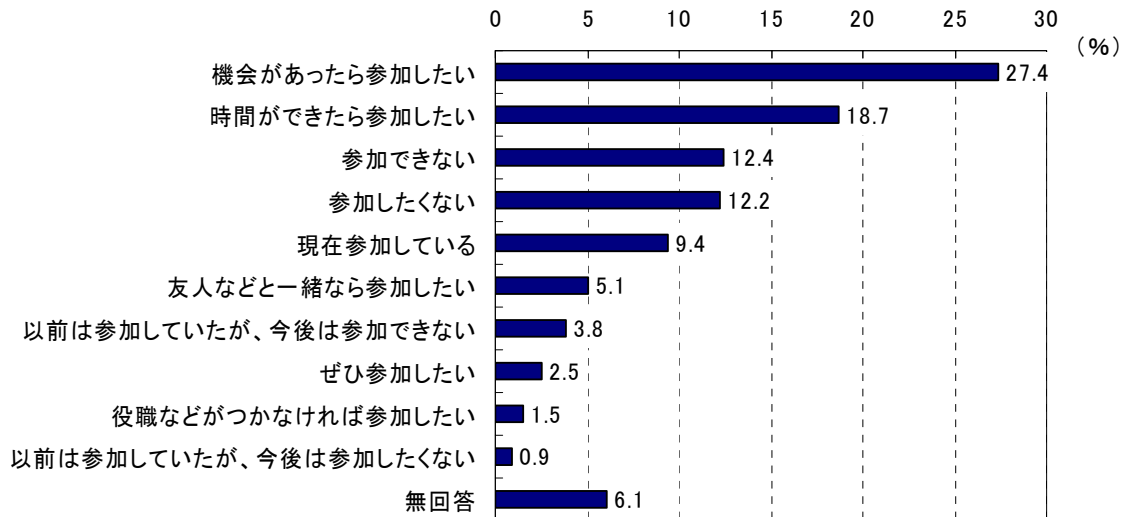
問18 民生(児童)委員の認知度 (単数回答) n=788



各地域に必ず存在する民生(児童)委員さんについての認知度についてお聞きした設問です。ここでは、「地域の民生(児童)委員さんも活動内容も知らない」という回答が全体の4割弱をしめました。前問の社会福祉協議会よりも認知度が低いようです。「活動内容を知っている」方は全体の約34%です。社会福祉協議会の認知度に比べて、あまり活動内容が把握されていないように思われます。

問19 あなたは今までにボランティア活動に参加したことがありますか。また今後ボランティア活動に参加したいと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

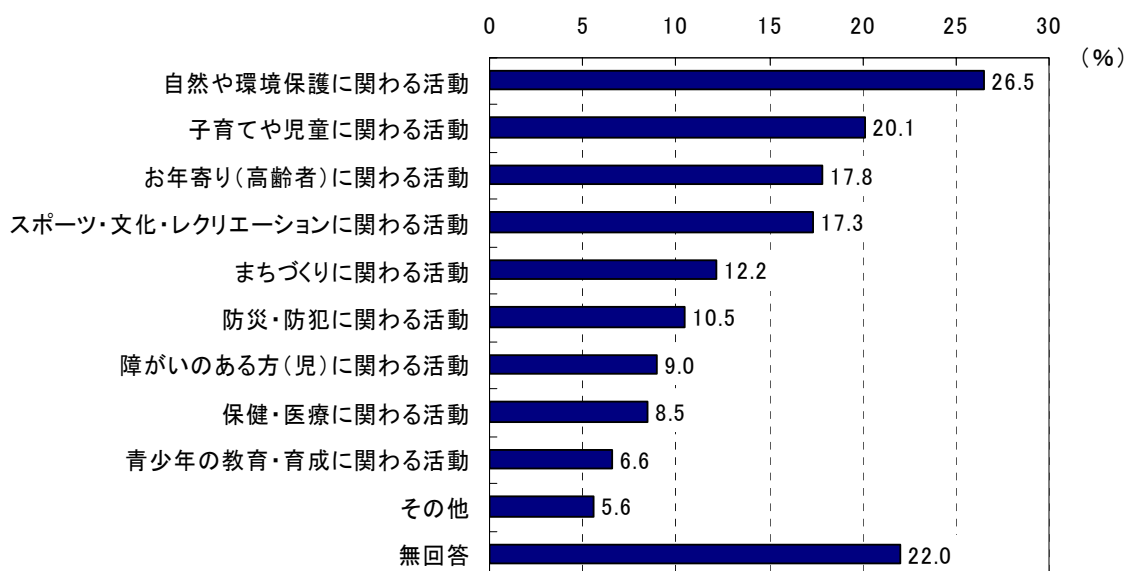
問19 地域のボランティア活動への参加経験・参加意欲（単数回答） n=788



ボランティア活動の参加経験や、意欲についてお聞きした設問です。全体的に、「参加している」との回答は低調です。一方、「参加したい」との回答で、「時間」を付帯条件にしている方が18.7%、「機会」を付帯条件にしている方が27.4%の数値を示しています。問14では、「地域活動に参加したいが、時間や機会がない」と回答した方が多数見受けられましたが、この設問とあわせて推測すると、こうした活動への「機会」を掘り起こす施策が必要ではないかと考えられます。

問20 あなたはどのようなボランティア活動をしています(していました)か。または参加したいですか。あてはまるものにすべて○をつけてください。

問20 ボランティアの活動経験・活動意欲 (複数回答) n=788

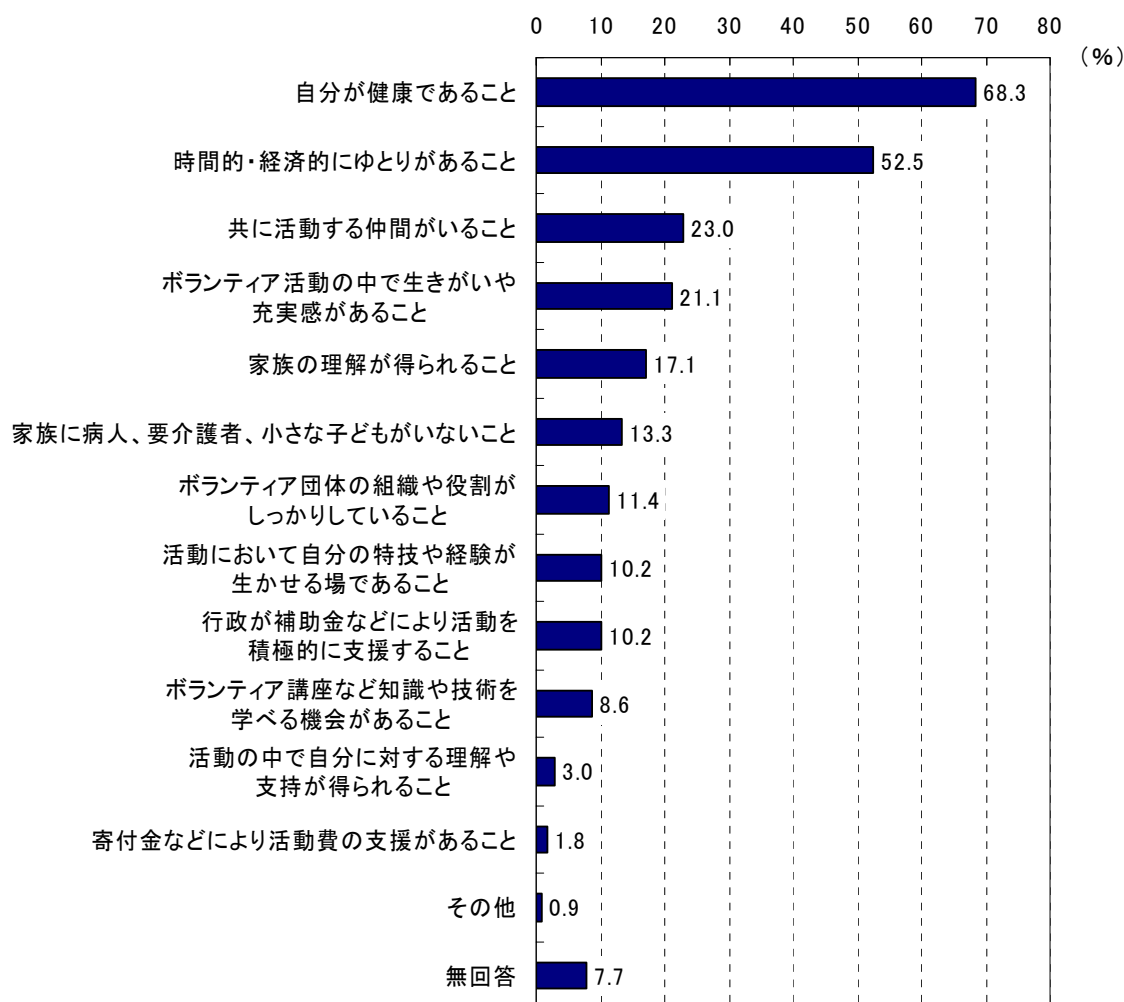


現在、または以前に行ったボランティア活動、また参加意欲についてお聞きした設問です。最も関心が高かったのは、「自然や環境保護に関わる活動」で、全体の4分の1を越えました。次いで、「子育て」、「高齢者」、「スポーツ・文化・レクリエーション」、「まちづくり」と回答が続いています。

アンケートに回答された方は、那須塩原市の自然に関心が高く、この点についてのボランティア活動の拡充が望まれます。また、子育て、高齢者についての活動も、ボランティア活動の裾野を広げることが求められています。

問21 あなたがボランティア活動を進めていくうえで必要な条件は次のどれだと思いますか。
あてはまるものに3つまで○をつけてください。

問21 ボランティア活動をする上で必要な条件（複数回答） n=788



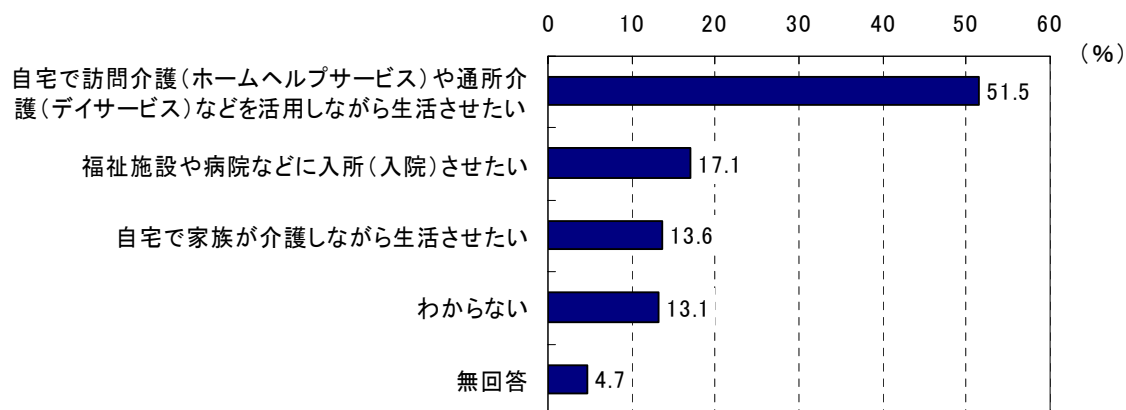
ボランティア活動に関して、必要な条件は何かをお聞きした設問です。「自分が健康であること」、「時間的・経済的にゆとりがあること」に、半数以上の回答が集中しました。次いで、「共に活動する仲間がいること」、「ボランティア活動の中で生きがいや充実感があること」、「家族の理解が得られること」と回答が続いています。

ボランティア活動を行うに当たっては、自らが「健康」で「時間的・経済的にゆとりがあり」、「仲間」と「生き甲斐や充実感」を感じられ、「家族の理解」があって行える、というように多くの条件が重なっていると、回答者は感じているように思われます。

4. 地域における福祉のあり方について

問22 あなたは仮にあなたの家族が介護が必要になったとき、どのように過ごさせたいと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問22 家族に介護が必要になったとき（単数回答） n=788



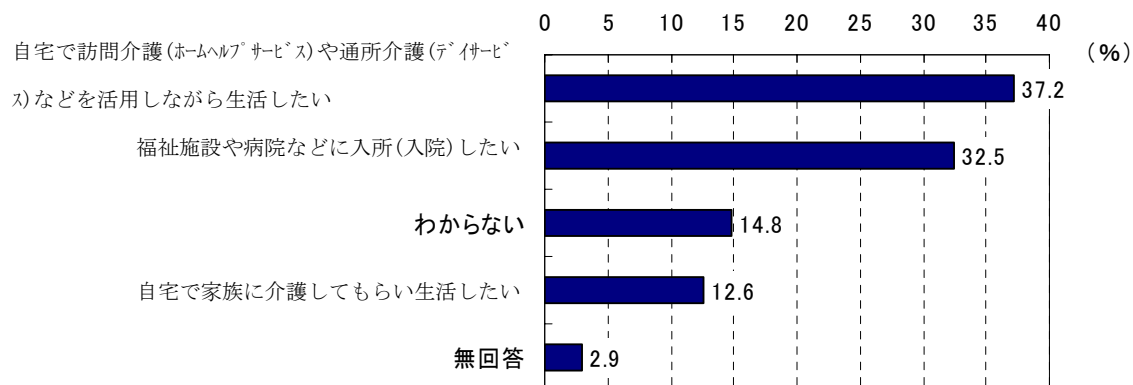
ここからは、地域における福祉のあり方として、主に介護福祉や高齢者・障がい者福祉、福祉の全体像についてお聞きしています。この設問では、家族が要介護となった際に、どのように過ごさせたいかについてお聞きしました。

訪問介護や通所介護も含め、「自宅」で主に過ごさせたいと考えている方は、全体の約65%でした。一方、福祉施設や病院で過ごさせたい方は全体の17%であり、自宅と施設・病院との差の開きが大きいことが分かります。

そのなかで、訪問介護や通所介護を活用した自宅での生活を希望する方は全体の過半数であり、介護制度をうまく活用しながら、自宅で生活をさせたいと考えている方が多数であることが判明しました。

問23 あなたは仮にあなたが介護が必要な状態になったとき、どのように過ごしたいと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問23 自分に介護が必要になったとき（単数回答） n=788

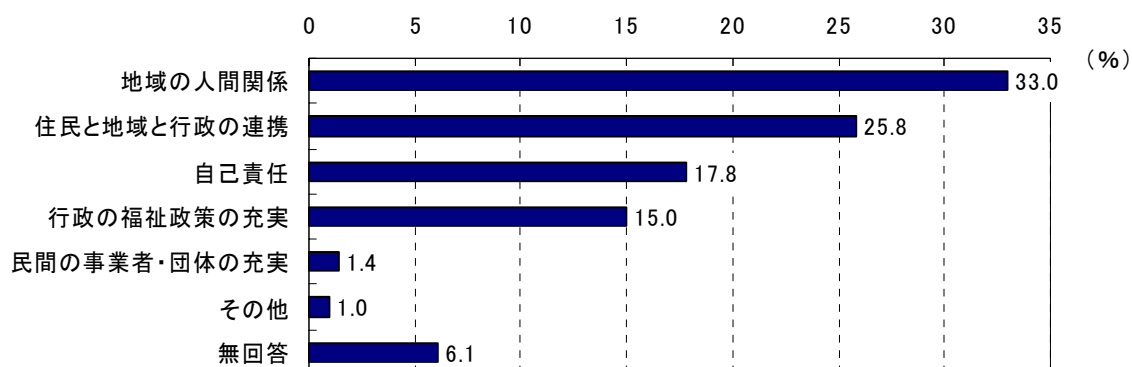


ここでは、自分が要介護になった際に、どのように過ごしたいか希望をお聞きしました。前問と同様に、訪問介護や通所介護を活用した自宅での生活を希望している方が多数を占めたものの、割合は37.2%と、家族が要介護になった場合と比べて低い割合となりました。その理由が、「福祉施設・病院に入院したい」という回答がほぼ同数になったところにあります。

前問との設問で比べると、家族は「自宅」で過ごさせたいが、「自分」は「自宅」又は「病院」で迷っている、といった姿が予想されます。本アンケートでは、30～69歳の層が多くの回答を寄せている点から考えると、「自分の親は自宅で」、「自分は病院・福祉施設に入所もあり得る」と考えているのではないのでしょうか。

問24 あなたは地域で生活するために重要なことは次のどれだと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問24 地域で生活するために重要なこと（単数回答） n=788

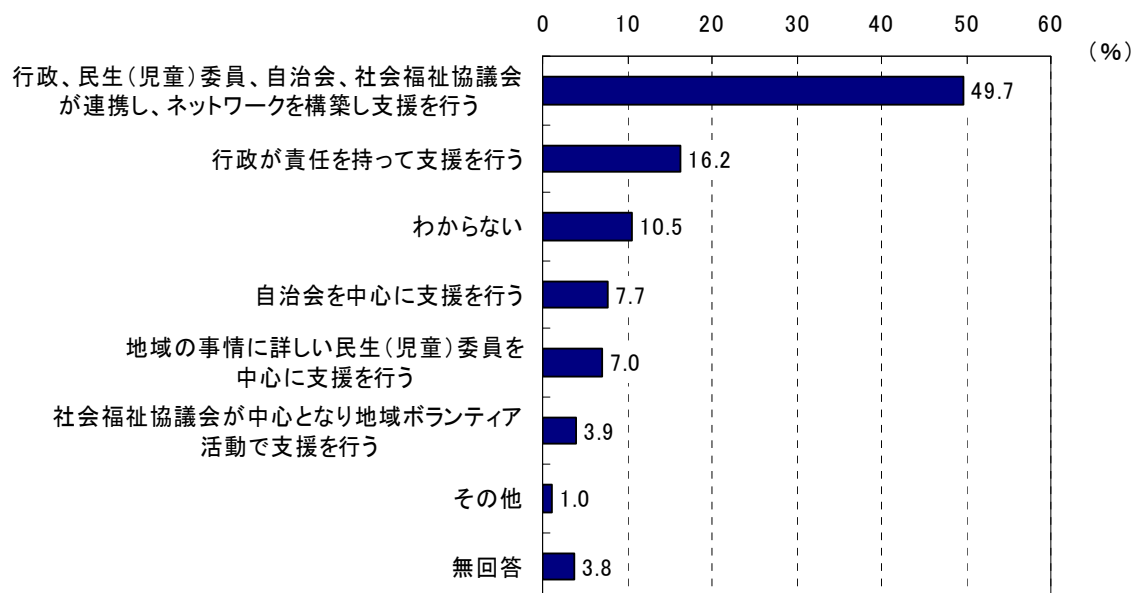


ここでは、地域生活に重要なことは何であるかをお聞きしました。「地域の人間関係」を望む方が全体の4分の1を越え、最も多い回答でした。次いで「住民・地域・行政の連携」、「自己責任」、「行政の福祉政策の充実」と続いています。

問11の近所づきあいの設問で、近所づきあいが「ある」と回答した方が全体の8割を越えたことから考えても、「人間関係を良好に保ちたい」と考える方が多いことは十分予測されます。しかし一方で、これから本格的な高齢化社会を迎えるに当たって、「行政」が手助けしてほしいと考えている方も少なくないようです。

問25 あなたは災害時や救急時におけるひとり暮らしのお年寄り(高齢者)や障がい者の安否確認、支援などを行うための体制は、次のどれが良いと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

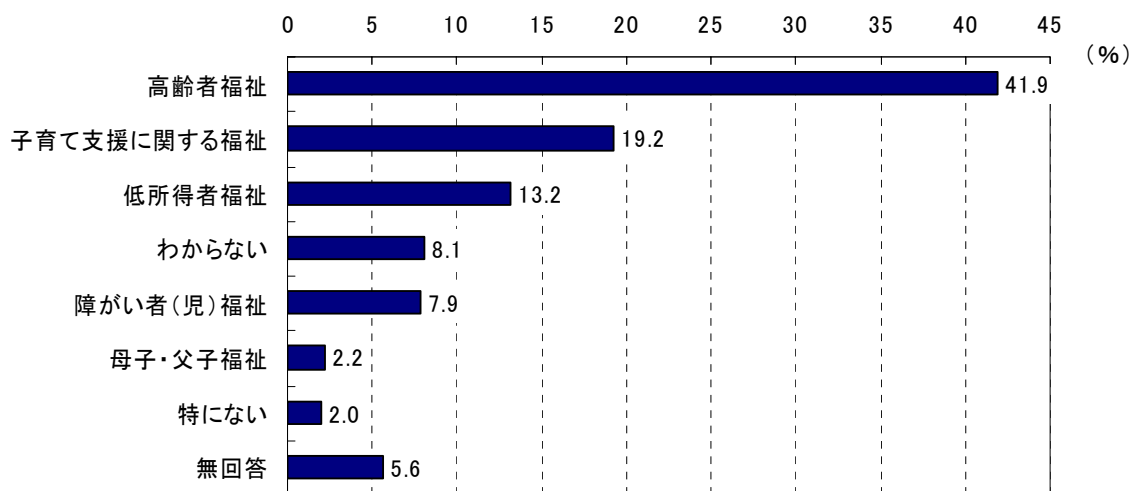
問25 災害時や緊急時の高齢者や障がい者の安否確認・支援によいもの (単数回答)
n=788



この設問では、災害時における独居高齢者や障がい者の安否確認や支援について、どのような体制が望ましいかお聞きしました。ほぼ半数の方が、「行政、民生(児童)委員、自治会、社会福祉協議会が連携し、ネットワークを構築し支援を行う」ことを期待しています。他の選択肢を見ても、単独の団体では無理がある、と考えている方が多いのかも知れません。今後、安否確認や支援の体制をつくる際、どのようにネットワーク化させていくかが課題となるといえます。

問26 あなたは限られた財源を有効に活用するため、今後、特に重視していくことが望ましい福祉施策は次のどれだと思いますか。あてはまるものに1つ○をつけてください。

問26 財源を有効に活用するために、今後特に重視すること（単数回答） n=788

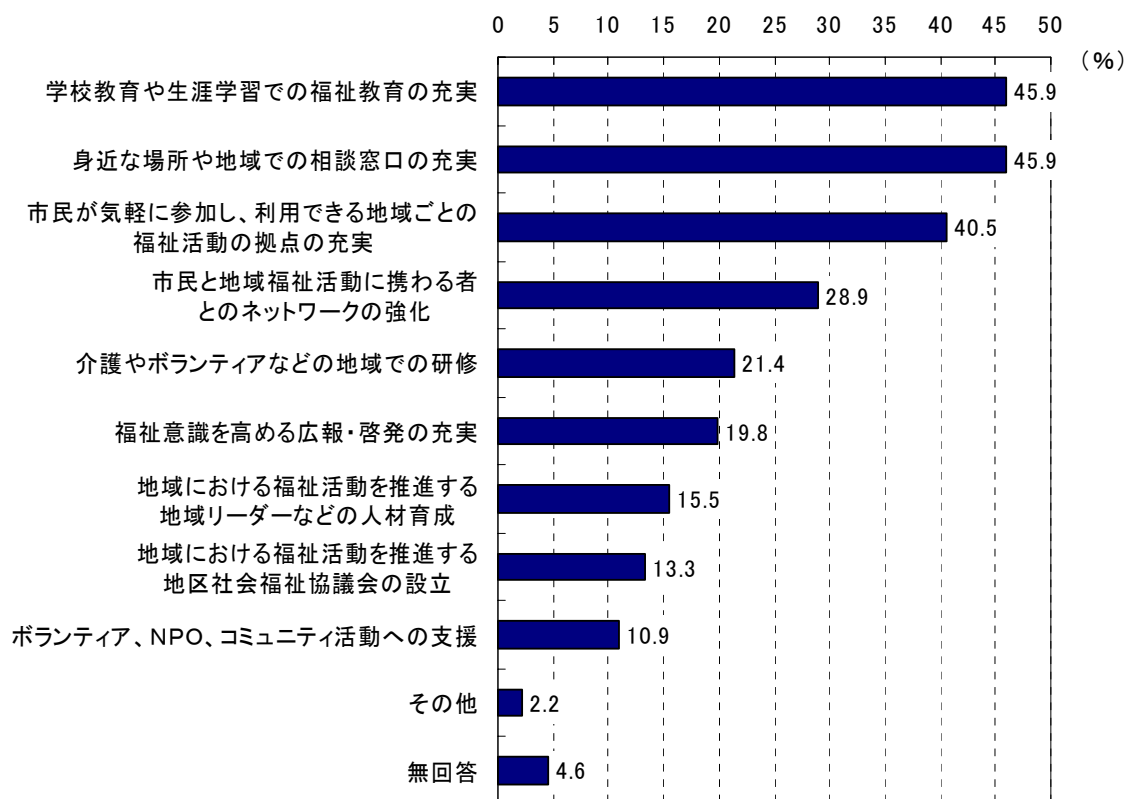


この設問では、限られた財源の中で、どの福祉施策を重視するかについてお聞きしました。「高齢者福祉」が41.9%と最も多くの回答を占め、次いで子育て支援、低所得者福祉と続いています。一方、障がい者福祉、母子・父子福祉に関しては低調でした。

このような結果になった背景として、問1の年齢構成として30～69歳が多く回答している点、問4の居住世帯として2世代以下の家庭が多かった点、問5の同居家族の障がい者・介護保険利用者が12.9%と低調であった点などが考えられます。

問27 あなたは地域における福祉を推進するため、今後、何が必要だと思いますか。あてはまるものに3つまで○をつけてください。

問27 地域における福祉を推進するために（複数回答） n=788



地域福祉推進のために、何が必要かについてお聞きした設問です。40%を越えたのは、「学校教育や生涯学習での福祉教育の充実」、「身近な場所や地域での相談窓口の充実」、「市民が気軽に参加し、利用できる地域ごとの福祉活動の拠点の充実」でした。福祉についての定期的な教育が必要であると考えている方が多く、福祉について相談できる窓口や、活動拠点を充実させてほしいと考えている姿が浮き彫りとなりました。

それより一歩踏み込んだ他の選択肢が低調なことは、「福祉が身近に実感できない」という市民意識の表れではないかと考えられます。福祉が身近に実感できる体制をどのように構築するかが今後の課題といえるでしょう。